

# 37 和紙のはがきづくり (牛乳パックから)

～牛乳パックで紙すき体験～

**要：事前体験**

主なねらい ◎紙づくりの文化と環境を考える	適 期	通年
	所要時間	半日
	対 象	小学校高学年～
準備物	学校・団体	自然の家
	牛乳パック、 <u>さらし</u> 、新聞紙、下じき(板等) でんぷんのり	大鍋、ミキサー、バット、型枠、網 アイロン、アイロン台、ベニヤ板、ザル

## 1 作り方

			
① 薄いビニールをはがす	② ミキサーで細かく砕く	③ 型枠を静かに動かす	④ 新聞紙の上にさらしを敷き、できた和紙を移す
			⑦ 完成
⑤ 体重をかけて水をきる	⑥ アイロンをかけ、乾燥させる		

### (1) 牛乳パックから材料を

- ① 牛乳パックの接着部分はずし、1枚の板状にします。
- ② それを1晩水に浸けます。(1時間ほど煮てから浸けてもよい)
- ③ パックの表面と内側の薄いビニールをはがします。
- ④ ビニールにはさまれていた白い紙が、原料になります。

### (2) 原料の加工

- ① 原料になる白い紙を、できるだけ細かくちぎります。
  - ② ちぎった紙を、水7～8：紙2～3の割合でミキサーにかけます。このときでんぷんのりを適量入れます。ミキサーをかける時間は、7～8分位です。
  - ③ それをザルにあけ、水を切りながらピンポン玉位のダンゴをつくります。  
(ダンゴの重さは20～25g)
  - ④ ダンゴ1個が、1枚のはがきになります。(はがきは5～6gになる)
- ※ 1割の牛乳パックから5個位のダンゴが取り出せます。

### (3) 型への流し込み

- ①ダンゴ1個に水 500cc と糊を小指の頭ほど加え、ミキサーに3～4分かけます。
- ②型枠に網とさらしを置き、ミキシングした原料を流し込みます。
- ③表面が平らになるように、水分の多いうちに型枠を静かに動かしてください。  
(水を張った容器の中での作業も良い)
- ④型枠からさらしごと持ち上げ、広げた新聞紙の上に置いてさらしをかけます。
- ⑤新聞紙を折り、下敷を置いて静かに押えながら水を切ります。
- ⑥新聞紙を取り替えながら、徐々に体重をかけて水を切っていきます
- ⑦5回目から全体重をかけます。
- ⑧6回目で、水分はほとんど出なくなります。

### (4) 仕上げ

- ①水分がほとんど出なくなったら、下のさらしはそのままにしてベニヤ板やガラスに並べ、陰干しをします。(上のさらしははずす)
- ②完全に乾いたら、下のさらしははずします。  
※陰干しの余裕がないときは、上下のさらしの上からアイロンをかけて乾かします。木の葉や濡らした毛糸を使ったときも、アイロンを使うと色のにじみを防ぐことができます。

### (5) 紙すきをする場合

- ①(3)①の作業が終わったら、それを大きな入れ物にあげ、更に水を1割加えます。
- ②同じ割合で、原液の量を増やしていきます。
- ③適当な量になったら、紙をすきます。
- ④紙をすいているうちに原液が薄くなるので、(3)①でできた物を加えます。

## [ひと工夫] 模様をつける

③の作業が終わってから、木の葉や濡らした毛糸を置き、上から2倍に薄めた原液をかけます。

詳細はホームページ参照